

「いぶ好き『ふるさと学』」—開聞の郷土芸能を知る—

1 学校名

指宿市立開聞中学校 指宿市立開聞小学校 指宿市立川尻小学校

2 学年・人数

開聞中学校1年 39名

開聞小学校5年 26名, 6年 28名

川尻小学校5年 17名, 6年 7名

3 日時・場所

(1) 保存会の講話とグループづくり・話合いの日時・場所

平成30年5月21日(月)午前 講話・グループづくり等(開聞中学校体育館)

平成30年7月10日(火)午前 練習(開聞総合体育館)

(2) 発表の日時・場所

平成30年7月10日(火)午後 発表会(開聞総合体育館)

平成30年10月26日(金)終日 開聞中学校文化祭(開聞中学校体育館)

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能・伝統行事について

指宿市教育委員会では、小中一貫教育の中で、郷土教育「いぶ好き『ふるさと学』」を推奨している。開聞中学校区の児童・生徒(小学5・6年生, 中学1年生)が開聞中学校に集まり、12団体の郷土芸能の歴史や由来の説明を聞き、7団体の郷土芸能の体験を通して地域で継承されている郷土芸能について学び、グループで踊りの発表を行った。教育素材は、開聞地域で継承されてきた次の郷土芸能である。

(1) 名称

・ 説明をして頂いた郷土芸能保存会 12団体

・ 練習指導を頂き発表した郷土芸能 7団体

開聞龍宮太鼓、川尻剣舞、脇浦古琴節、上野猿の子踊り、川尻棒踊り、枚聞神社

神舞、入野物袋琉球人踊り

(2) 由来・構成等

※ 各郷土芸能の由来と構成等については、継承活動を行った郷土芸能の団体数が多いため、「指宿まるごと博物館」のホームページの動画で参照していただきたい。

5 保存会や地域との連携の具体

・ ねらい

小中一貫教育の「いぶ好き『ふるさと学』」において、ふるさとを素材にして、郷土を愛し、誇りに思う心を育て発展に尽くそうとする態度を育てたり、異年齢集団での学び合いを通じ、郷土芸能の保存会の人々との交流を深めたり、学習したことを発信したりする中で、豊かな表現力とコミュニケーション能力を育成する。

- ・ 連携

ねらいを実現するために、保存会の方々が何回も学校に出向き、郷土芸能の理解や活動の進め方について教員と打ち合わせをしたり、児童生徒がより興味を持てるような話や指導に努めたりしていただいた。また、児童生徒がより自主的な活動ができるようにグループ編成やリーダー育成にも心がけていただいた。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

- ・ 郷土芸能 12 団体の保存会の会員に学校に出向いていただき、児童生徒が校区内の郷土芸能に興味をもち、深く理解できるように使っている太鼓や仮面、衣装などに直接ふれさせたり、深く理解できるように分かりやすく講話をしていただいたりした。
- ・ 小学 5・6 年生と中学 1 年生の異学年の縦割りグループを作らせ、中学 1 年生がリーダーとなり主体的に活動ができるように指導した。
- ・ 10 の縦割りグループが意欲的に取り組むように、やってみたい郷土芸能を話し合ったり、保存会の指導者とすでに習得している児童生徒から踊りの所作や口上について学んだりしながら発表ができるように指導・助言した。

7 取組の様子(練習状況・発表の場等)



保存会による指導状況



発表(上野猿の子踊り・開聞竜宮太鼓)



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

- ・ 脇浦古琴節をする前は、「私にできるかな?」と思ったが、2時間ぐらい同じグループの人たちと練習しているうちにとても楽しくなり、発表の時は緊張したが、とても楽しくできた。(生徒)
- ・ 次はみんなに喜んでもらえるようにがんばりたい。(生徒)
- ・ 開聞小学校や川尻小学校の 5・6 年生ともたくさん話をしたり、遊んだりしてふれあうことができたのでよかった。(生徒)
- ・ 開聞地域の郷土芸能を知ってもらえる機会となり、とても良かった。(保存会)
- ・ 居住地で継承活動に参加しすでに踊りを覚えている生徒が、他の生徒に自主的に教えている姿をみて、良い取組であると思った。(保存会)
- ・ 異学年の児童・生徒同士が、和気あいあいと活動し、お互いに教え合い、自主的に活動でき、当初のねらいが達成できた。(教員)
- ・ 中学 1 年生は、普段学校生活では上級生がいるためリーダーになることは少ないが、小学 5・6 生に積極的に声掛けをしたり、踊りを教えたりするなど、主体的に活動することができ、「中 1 ギャップ」の解消の一助にもなった。(教員)